

第2学年女子 保健体育科学習指導案

学習指導者

1 日時・場所 年 月 日 () 第 校時 体育館

2 単元 傷害の防止～応急手当～

3 単元について

- (1) 国内で心停止を起こす人は年間 13 万人にのぼり、7 万人を超える心臓突然死が発生している。そのうち心停止の 74% が自宅で発生し、周囲の人たちにより心肺蘇生などの応急処置を受けた人はおよそ 30% にとどまっている。他の先進国の 70% と比較するとその差は大きい。さらに、社会に復帰する確率となると、13% と依然低い状態にあるが、半数以上が社会復帰を果たしている国もある。日本は、AED 普及が世界一である。ところが、救急隊到着前に AED が活用された割合は 4.7% で、世界一命を救える国でありながら、普及と活用にはいまだに大きな「壁」がある。

しかし、児童・生徒が行動を起こし、大切な命を救った次のような例がある。平成 21 年、東京都の小学校 6 年生は、就寝中に突然呼吸が停止した父親に対し、119 番司令室員の「胸の真ん中を真下に押し」「1 秒に 1 回よりも速く」という指示通りに胸骨圧迫を行い、奇跡的に命を救った。また、平成 30 年、兵庫県の中学校 3 年生は、電気作業中に 2 階の足場から転落し、意識を失っていた男性の呼吸の異常に気付き、自分から「(心肺蘇生法が)分かるからやります」と申し出た。その呼吸の異常は学校で習った「死線期呼吸」だと思い出し、「やるしかない」と胸骨 圧迫と人工呼吸を必死で行ったのおかげで、男性は仕事に復帰することができている。

「1 分経過で救命率が 10% ずつ減少する私たちの命」は、その時、その場に居合わせた人の「運命の 5 分間の行動」が鍵を握っている。子どもたちが心停止のリスクを負っていると同時に、心停止の場面に居合わせる可能性、命を守ることができる可能性ももっている。大野原中学校の生徒も同様である。大野原町の中学生が、心肺蘇生・心臓突然死を「自分ごと」「学校ごと」「社会ごと」として捉え、みんなで「命を守る」意義とその方法を学ぶことは、地域における救命の大きな力になると考える。さらに、BLS (Basic Life Support: 一次救命措置) の学習は、共に「命」と向き合い、「命の重さ」や「人との絆」、「互助の精神」を学ぶ絶好の機会となり、今後予測される自然災害などにおいても、地域を支える力となる汎用性の高い学びになると考える。

- (2) 本学年女子 35 名の生徒の実態は、以下の通りである。

- ① 本学年の生徒は、日頃から学年団集会などで「命」や「安全」について話題にすることが多く、体調が悪い生徒やけがをしてくる生徒に思いやりのある行動をとることができる。2 学期初めの「避難訓練」や「救急の日」などを通して、具体例を挙げながら応急手当の意義などを話題にし、「命」や「安全」について関心が高まった状態で授業に臨めるものと思われる。
- ② 事前のアンケートから、「けがの対処に困った」経験をもつ生徒は 34% (12 名)、「けがの対処のための行動 (手当をしてあげる、先生に伝えるなど) に移すことができなかった」経験をもつ生徒は 57% (20 名) であった。また、「意識や呼吸がないのではないか、大けがだった」といった場面に居合わせた経験をもつ生徒は 6% (2 名) であった。「この授業でぜひ身に付けたいこと」として、「心臓マッサージができるようになって人を助けたい」や「勇気を出してやってみよう」など、関心の高い生徒が見られた。一方、「もし、一人だったら本当にできるのか」や「実際にやるのは難しそう」といったと不安を感じる生徒も見られた。

- (3) 本単元は、BLS 教育に基づいて学習を進めるとともに、「みんなで学ぶことは、大切な人の命を守るとともに、自分の命も守られる」という当事者意識をもたせ、応急手当の意義の理解と実習による技能の習得を中心に、以下の通り学習を進めていく。

- ◎ 本単元では、「小・中・高の生徒が命を救った例」について全員で調べ学習を行う。そして、調べた内容をグループや学級で共有しながら、「心停止の場面に誰もが居合わせる可能性がある」というリアリティーをもって当事者意識を育てたい。また、「どんな行動が命を救ったのか」に注目させ、「行動することの重要性」について気付きを促したい。
- ◎ 生徒の不安な意見を大切に、「C a l l (119 番通報と AED の要請) & P u s h (胸骨圧迫) & P u s h (AED の 2 つのボタンを押す)」を合言葉とし、「3 つの自分がやるべきこと」を明確させ、全員に「胸骨圧迫」と「AED」の実習を行なわせる。さらに、理解と技能の定着を図るために、本単元での実習と 2 学期末にある赤十字の方の実習との 2 回の実習を積み重ね、生徒の意識の変容を促したい。
- 心停止が発生する場所の 7 割が「自宅」であることから、「胸骨圧迫だけでも始める」ことが救急の第一歩であり、「絶え間ない胸骨圧迫の重要性」を押さえない。また、AED に関しては、私たちが唯一、心室除細動を取り除く方法が AED であり、「電源さえ入れれば、判断してくれるのは AED」であることを押さえない。
- ◎ 実習は、グループで行う。役割分担を行い、「声 (復唱と復唱確認)」を重視して確認し合うことにより、「お互いの命を守るチーム」であることを意識させながら、実習を進めたい。

4 学習目標

- (1) 応急手当の意義、手当の基本について理解することができる。
- (2) 実習を通して、応急手当の一般的な流れについて理解し、実際にその流れを行うことができる。
- (3) 実習を通して、心肺蘇生法（胸骨圧迫とAED）ときずの手当について理解し、実際に手順と方法に従って行うことができる。

5 学習指導計画

- (1) 「中学生が命を救う～私たちの世代の救命体験を調べよう～」・・・1時間
- (2) 「応急手当の意義と基本～その時、その場所、その5分！中学生の私たちにできること～」・・・2時間（本時3/4）
- (3) 「きずの手当～よくあることだから、自分でできる～」・・・1時間

6 本時の学習指導

- (1) 題材 傷害の防止「応急手当の意義と基本～その時、その場所、その5分！中学生の私たちにできること～」

(2) 目標

- ① 応急手当の意義を自分の言葉でまとめることができるとともに、心停止の人を発見したときに自分がどのような行動をすればよいか理解できる。
- ② 応急手当における「胸骨圧迫」と「AED」の重要性を理解し、グループでお互いの技能を高め合うための助言や改善点を話し合いながら、実際に手順と方法に沿って行うことができる。

(3) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援及び指導
1 これまでの学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> 発問①「見方・考え方」を引き出す発問 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生が心臓マッサージをしていたなあ。 ・ 人工呼吸をする勇気はないよ。AEDの準備もあったなあ。 	◎ レポートを学級で共有し、同じ世代の人たちが実際に起こした行動について振り返らせ、自分たちも救急の場で力を発揮することができる当事者であることを意識させる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 事前レポートやこれまでの経験から考える場面 </div>
「あ！人が倒れてる！中学生の私に何ができるのか？」		
2 「タイムリミットの5分間」でできることを考える。 (1) 「タイムリミットの5分間」の理由を知る。 (2) 5分間で自分たちができることを考える。 (3) 自分たちができることを分類する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 優先順位をつける。 ・ 場面を想定する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px 0;"> 発問②「見方・考え方」を鍛える発問 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ たった5分が人の命を左右するのか。 ・ でも、この5分間には、お医者さんも救急隊もない。自分たちだけだ。 ・ することは思いつくけど、私に何ができる？ ・ 「命を守る」ことから考えると人工呼吸？心臓マッサージ？どちらが先なの？ ・ もし、自分だけが発見したらどうするの？「当事者意識」から発問 	○ 心停止から5分間が、「天恵の5分」や「運命の5分」と呼ばれる理由をグラフを使って視覚的に理解させる。また、1分、1秒が命を左右し、その5分が自分たちにかかわることに気付かせたい。 ◎ 「命を守るために一番にすべきこと」の優先順位を考えさせ、自分たちのとるべき行動を明確にさせていきたい。また、リアルな場面を想定し、「自分だけの時」「周囲に人がいる時」「あえぐような呼吸の時」など、さらに自分の行動について考えを深めさせたい。
3 「胸骨圧迫」と「AED」の重要性を知り、実際に手当を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家ならAEDがないから、まず胸骨圧迫を始めなきゃ。 ・ あえぐような呼吸も心停止と考えると、胸骨圧迫を始めよう。 ・ 学校にもあるAEDの役割が分かった。まず、電源を入れることが大切なんだね。 	○ 心停止の7割が自宅で起きることを伝え、その場に居合わせた人の「Call&Push」の重要性を押さえる。 ◎ AED使用の不安を和らげるために、「指示はAED自身がする」ことを説明し、AED使用により、救命率が4倍になることを押さえる ◎ グループで復唱の声を大切にするとともに、気付きを交流させ、自分の行動を振り返らせる。 ◎ 行動することの重要性を確認し、お互いの命を守るために自分ができることを共有させたい。
4 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで学び、人の命を守ることは、自分の命を守ることなんだ 	◎ 行動することの重要性を確認し、お互いの命を守るために自分ができることを共有させたい。

(4) 評価

- 「タイムリミットの5分間」で自分が行なう行動が具体的に変わったか。
- 自分が行なう行動の重要性と手順・方法が分かり、その大まかな手順が身に付いたか。

第2学年3組 保健体育科学習指導案

指導者

- 1 日時・場所 年 月 日 ()
- 2 題材名 「私たちができる防災を考える」
(ほ)くたちの (う)まれた町を (さい) (再) 確認 (い)のちをつなげ! 私たちの町で!
- 3 題材について

- (1) 本題材は、傷害の防止「自然災害に備えて」に関して地域に根ざして学習を進めるとともに、「防災教育は自分の命を守る学習である」という当事者意識をもたせ発展的に学習を進めていく。防災教育の代表例として有名になった「釜石市立釜石東中学校」のように防災教育で命が守れるのだとしたら、防災教育をしている学校としていない学校との間には「命のリスク」に差が生まれる。怖い気持ちを奮い立たせ、小学生の手を引き、具体的な行動を起こすことができた中学生の判断力・行動力は「釜石の奇跡」と呼ばれたが、「一生懸命、普段どおりで特別なことではない。『普段をしっかりしなさい』という先生方の言葉を信じた。」と振り返っている。さらに、地域のお年寄の「もっと高台へ。」という言葉をよく聴き、さらに行動を起こした釜石市の中学生の一連の行う動は決して「奇跡」ではなく、「一生懸命、普段どおり」を意識づけた教員と教員の言葉を信じ、実践した生徒の防災教育の「軌跡」であると考え。釜石市同様、「自助」から「公助」そして「共助」の中心となっていく「〇〇〇町の中学生」の地域での役割は大きく、そのために「大野原中の一生懸命、普段どおり」を生徒や地域と共につくっていく必要がある。「親が働きに出たそのあとで・・・兄弟、姉妹、祖父母という自分が何ができるか?」といった具体的な場面を想定しながら、①災害への日常的な備えを考え②主体的に安全確保のための「自助」・「公助」の行動を具体的に知り、③災害の内容に応じた自分自身の力を「共助」のためのどう使うのかを理解していく学習は、生徒たちが家庭に帰る夏休みを前に大変重要であると考え。
- (2) 本学級女子15名の生徒の実態は以下の通りである。
 - ① 本学級の生徒は、友だちの意見に素直に耳を傾けたり、思いやりのある行動を賞賛したり、運動会などの学校行事を経て、互いを思い合う支持的雰囲気が高まりつつある。1年時から避難訓練なども比較的真剣に行うが話し声もあり、避難訓練の意義を具体例を挙げながら説明し、当事者意識をもたせる時間を設定する必要があると考える。
 - ② 本題材では、特に地震による自然災害について学習を行う。小学校や他教科での既習したことや調べ学習の内容を友だちと共有しながら、グループでの話し合いを通して新たな気付きを促したい。また、気付きを共有化し、個々の生徒の防災に関する視野を広げていきたい。
 - ③ 事前のアンケートから、小学校の修学旅行で淡路島の野島断層を見学し、被害の大きさを目の当たりにしている。災害時に「家族で集合場所や避難経路を決めている」生徒は3名、「備蓄食料を用意している」生徒は5名、「懐中電灯やラジオを用意している」生徒は9名いた。
- (3) 本題材では、「命を守る」具体的な行動を生徒一人ひとりが判断していくことを大切にす。地震災害が大きな被害をもたらす可能性を知り、自分にも起こり得る当事者意識を育てるとともに、適切な対処をすれば、例え被害があっても危険を回避できることを知り、「命を守る適切な判断力」を育てるよう、以下の点に留意して支援を行う。
 - ・ VTRやインターネットや本での調べ学習を活用し、「学習することが命を守ることに繋がっていく」という意識を育てたい。また、実際に中学生が行動した資料などを活用し、「中学生が地域に貢献することの重要性に気付かせたい。
 - ・ 地理的条件やそれに伴う災害種別などの「地域性」を考慮し、近隣の自治会の生徒を一つのグループとし、市や町のハザードマップや防災マップなども活用して地域に根ざした学習を行う。地震発生時に「登下校中の場合」「夏休みに保護者が家にいない場合」など具体的な場面を想定して、自治会ごと避難場所や避難経路などをグループで意見を交流させる中で、「自分ならどうするのか」についてじっくりと考えさせたい。
 - ・ 地域や家庭での防災の様子を生徒自身が聞き取り調査を行ったり、家庭での防災の様子を学級通信で紹介したりして、家庭とともに防災について考える意識を育てていきたい。

4 学習指導目標

- (1) 災害例から危険を理解するとともに備えの必要性や情報の活用について知り、自分の判断に活かそうすることができる。
- (2) 被害の軽減や災害後の生活について考え、「備え」を具体的に考えることができる。
- (3) 地域の防災や助け合いの大切さを理解し、具体的な参加できる行動を考えることができる、

5 学習指導計画

- ・ 「地震時の中学生の活躍について知る」・・・1時間
- ・ 「地震の発生の仕組みを調べよう」「我が家の防災を調べよう」・・・家庭での調べ学習
- ・ 「観音寺市・〇〇〇町の地震被害の特長を知る 〇〇〇中学校では?」・・・1時間
- ・ 「私たちができる防災を考える」
(ほ)くたちの (う)まれた町を (さい) (再) 確認 (い)のちを守れ! 〇中生!

・・・本時 (3/3)

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ① 〇〇〇中学校や自分の家庭における災害の「地域性」を知り、学校・家庭での「日常的な備え」について具体的に考えることができる。
- ② さまざまな場面に応じた、自分の安全を確保する行動や避難について考えることができる。
- ③ 友達の考えを受容的に受け入れ、中学生の地域での役割について学級で考えることができる。

(2) 学習指導課程

学習内容及び学習活動	教師の支援及び指導事項	評価
<p>1 これまでの学習を振り返る。</p> <p>2 ○○○町の地震災害の特徴を確認する。</p> <p>発問①「見方・考え方」を引き出す発問</p> <p>「中学生に何ができるのだろうか？」</p>	<p>○ 災害時における中学生の活躍やその活躍の源になった活動について触れ、自分たちも地域や家庭の防災の当事者である意識を高める。</p> <p>○ 地域の防災マップやハザードマップを活用し、○○○町の地震被害の特長を確認するとともに、自分自身の住んでいる地域にシールを貼らせ、○○○町の中でも被害の違いがあることに気付かせたい。</p> <p>◎ ○○○中学校への被害を想定し、学校にいるときに自分たちができることを地震発生時や二次災害発生時についてグループで考えさせる。また、学校での避難などについて再度確認する。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 自分の町である大野原町の災害時の被害を知り、自分の住む地域についても調べようとしている。</p>
<p>本当に今のままで大丈夫？ 自分ができる防災を考える</p>		
<p>3 もし、家庭で地震が起こった時の自分たちの行動を考える。</p> <p>発問②「見方・考え方を鍛える発問</p> <p>「○○○町に住む中学生に住む私たちに何ができるのだろうか？」 「もし、学校で、家で、登下校の時は？」</p>	<p>○ 各家庭での防災への「備え」について確認したり、調べ学習で気付いたことなどを発表したりして、家庭での防災の重要性を押さえる。</p> <p>◎ 「夏休み」を想定し、特に保護者が家がないときに「地震発生時」自分たちがとる行動やその行動の優先順位などをグループで考えさせる。家庭での災害時の約束がある生徒には、質問を行い、他の生徒への気づきのヒントとしたい。</p> <p>◎ グループごとに「地震発生後」の避難経路や避難場所を具体的に確認し、どうしてそのように選択したのかについて理由を発表させる中で、「危険から身を守る判断」について考えさせたい。</p>	<p>【思考・判断】 家庭においては自分自身の判断が重要であることを理解し、自分がかかるべき行動について優先順位をつけて考えることができる。</p>
<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○ 本時を通して、命を守るために中学生としてできることを考えるとともに家族や地域の一員として再度約束、確認したいことをじっくりと考えさせたい。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 地域の中学生として自分ができる具体的な行動を考えることができる。</p>